



# Weekly Report

## 小諸浅間ロータリークラブ

◆例会日/週火曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽  
 ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 2階  
 ◆会 長 / 渡辺 文夫 ◆副 会 長 / 渡辺 頼雄  
 ◆幹 事 / 依田 晋一 ◆芳広報・情報委員長 / 清水 泰男



NO. 1273 平成27年4月21日

◆点鐘	渡辺 文夫 会長
◆SAA	湯本 敏晴 委員
◆ソング	我らの生業

### 【会長挨拶】 渡辺 文夫 会長

会員の皆様こんにちは。只今さくらは満開です。  
 私は、先週より、小諸の名所を暇に任せて見回っております。皆様もこの機会を逃さずに楽しんで頂きたいと思います。4月の例会は本日をもちまして最終日です。4月28日の火曜日は定款による休会、5月5日は法定休日のため休会になりますので、よろしくお願い致します。

本日の卓話は黒田説成会員による呑龍上人のお話です。私も、子供の頃に子育て呑龍さんのお話を聞いた記憶があります、どんなお話か楽しみにしておりました、よろしくお願ひします。

米国の調査機関（ピュー、リサーチ、センター）が、今年1月30日~2月15日に日米双方でそれぞれ18歳以上の1000人を対象に電話による世論調査を実施した結果を公表しました。日米で認識の溝が浮き彫りになりました。それによりますと、戦後70年の日米関係について、相手国を信頼出来るかについては日本人の75%、米国人の68%が信頼しており、関係は良好となっておりますが、広島・長崎への原爆投下は正当化し得ると考えるかは、日本人14%、米国人は56%が正当化し得るという結果が出ました。また、原爆投下は正当化出来ないとの事では、日本人79%、米国人34%でした。相当な差があります。

日本の大戦中の行為について「謝罪は不要」と回答した米国人は61%で「謝罪は不十分」と考える人は29%でした。原爆投下を正当化した米国人は65歳以上で70%、18歳~29歳では47%世代間で大きな差があります。また、中国を信頼出来るとした米

国人は30%、日本人は7%でした。日本がより積極的に軍事的役割を担うべきと考える米国人は47%、役割を限定するべきだとした米国人は43%で、日本人は23%が積極的な役割を支持したとありました。

以上会長挨拶です。ありがとうございました。

### 【幹事報告】 依田 晋一 幹事

#### 1. 南佐久RCより創立40周年記念式典案内

日時 5月16日（土）受付16:00 式典16:30  
 祝宴17:30

場所 松原湖高原ホテル

会長・幹事に招待状

#### 2. 松本城RC、白馬RC、大町RCより記念誌

#### 3. 例会変更

上田六文銭RC 5月26日（火）例会会場変更  
 上田東急RELホテル1Fレストラン

6月2日（火） 定刻受付あり

6月23日（火） 定刻受付なし

6月30日（火） 定刻受付あり

小諸RC 4月29日（水） 定刻受付なし

5月6日（水） 定刻受付なし

5月20日（水） 定刻受付あり

上田東RC 4月29日（水） 定刻受付なし

5月6日（水） 定刻受付なし

5月13日（水） 定刻受付あり

5月27日（水） 定刻受付あり

6月24日（水） 定刻受付あり

東御RC 5月20日（水） 定刻受付あり

蓼科RC 4月22日（水） 定刻受付あり

5月20日（水） 定刻受付なし

6月10日（水） 定刻受付あり

6月24日（水） 定刻受付あり

#### 4. 週報

上田西RC

#### 【本日の配布物】

週報1272号、理事会報告

## ◆ラッキー賞

NO. 6 神津 恭通 君

## ◆ニコBOX 黒田 説成 委員

神津 恭通君	ラッキー賞、有難うございました。
黒澤 明男君	黒田さんのお話、楽しみにしております。

渡辺 文夫君	黒田さん、本日の卓話ご苦労様です。
黒田 説成君	卓話をします。

## ◆【出席報告】 小山 盛夫 委員

	会員数	出席	M・U	欠席	出席率
本日 4月21日	24	21	事前3名	3	86.96%
前々回 4月7日	24	20	事後0名	4	82.61%

## 【本日のプログラム】 「呑龍上人について」 黒田 説成 委員



今から約 400 年前、どこからともなく、供の僧一人を連れた、旅の僧が小さな草庵を作って住むようになりました。

どういふお方かは、誰も知らず、お供の僧の仕え方が余りにもうやうやしく、里の人達はよほど偉い坊さんだろうと話していました。日数がたつにつれ、親しく話をするにつれて、思ったとおり、学問も深く、心がやさしく、徳の高いのが分かってきました。

不思議なことは、草庵からは余り、外出することもなく、日夜、厳しく努める勤行にも音の

高い鉦を使わず、木の鉦を打って、何となく世をはばかりの様子が見える事でした。

その坊さんの赤子も慕うような人柄に里子達が懐いてお話をせがむようになり、勉強まで教えて頂くようになると親たちもしばしば、その草庵を尋ねて教えを聞き、相談ごとを持ち込み、いつしかお上人様と尊ばれるようになりました。

この上人こそ、徳川初代将軍家康の信頼厚く、家康公が大祖先、新田公の追善のために、上州太田の地に大光院という寺を建立したときに、選ばれて御開山として、迎えられた初代住職呑龍上人で、学徳を越え、慈悲として、特に多数の貧児を救済された事で、子育て呑龍として名高いお方であったのです。

その上人がなぜ、小諸の地に來られて世を忍ぶ生活をなさったかという、供の僧は元の名を源次兵衛といって病気に苦しむ父を思う一心から良薬と聞いた鶴を捕えて、その生血を父に飲ませました。この事が役人に知れ、禁制の鶴殺しの罪人という事で、源次兵衛は追われる身となり、太田の呑龍上人の許に逃れて助命を嘆願しました。

上人は、その願いを静かに聞いて、一命を救うために、源次兵衛を剃髪させ、夜、ひそかに山又山を越え、信濃路に入り、小諸の宿にたどりついて、仮の庵を結ばれました。弟子の源次兵衛は、何一つ不平をもらすことなく、毎日、黙々とよく師に仕え、まめまめしく働きました。朝夕、念仏に合わせて打つ木鉦の響きはいつしか、草刈りに上って来る、里人達の心にも染み渡って悩みを抱いた旅人達が寄り道して念仏道場に集まってくるようになりました。上人の小諸在住は足掛け 6 年に及びその間、難産に苦しむ婦人のために、名号の御符を与えて救われる等、ありましたが、元和 7 年ご赦免になり、晴れて太田に帰りましたが、9 年 8 月 9 日、68 歳で入滅になりました。

大光院での住職年限は 11 年間でしたから、実にその半分近くを小諸で過ごした事になります。小諸は呑龍上人とは、切っても切れない深い縁故の地であります。弟子の一命を救う為に、とられた上人の決断は正に人の命の尊さ、重さを実感させられます。

次週のプログラム：5月12日「家族親睦旅行報告」橋詰希望 会員

次々週のプログラム： 5月19日 合同夜間例会の為 休会 5月20日 合同夜間例会・ゴルフ